

東日本大震災に対する社会保険紀南病院の支援

去る3月11日に発生しました東日本大震災の被災地の1日も早い復興を願って、社会保険紀南病院は、和歌山県の要請により、3月25日から3月29日まで災害救護班を岩手県下閉伊郡山田町に派遣(活動期間3月26日～3月28日)、また、日本看護協会の災害支援ナースとして12名の看護師を派遣、等の支援を行ってきました。

また、今後とも引き続き、可能な限りの支援を行っていきます。

追記 当院の災害救護班の第2陣も6月5日に現地に出発しました。現地での活動報告現地にて実際に医療支援活動を行った職員の活動報告を掲載いたします。

岩手県救護班活動経過報告

救急部看護師長 宮井 慎司

私たちが和歌山県の医療救護班第3班として岩手県に医療支援に行ってから、2ヶ月が過ぎようとしています。当時は雪景色で、朝は氷点下の気温でした。宮古市や山田町は瓦礫が散乱し、元の道だったところの瓦礫を除けてやっと車が通れるといった感じでしたが、今は瓦礫の撤去も進んでいるようです。和歌山県の受け持ち地区(豊間根地区)の避難者数は867人でしたが、今は200人位になったようです。3ヶ月経ち、現地の医療ニーズの低下を理由に、和歌山県の医療支援も6月末で打ち切りが決まりましたが、まだまだ震災前の医療水準には戻っていません。これからは岩手県や政府の仕事になるのですが、支援はまだまだ必要な状況です。これからも何らかの形で長く長く支援をしていければと思います。



災害支援ナースの活動を経験して

救急部 竹本 順子

宮城県石巻市の避難所にて活動を行ってきました。活動内容は避難者の健康状態のチェックや環境整備、相談などを主に行いました。普段はすぐ手に入るものも避難所では思うように手に入らなかったりするのでいろんな工夫が必要でした。一番苦慮したのは、救護所が16時から翌朝9時まで閉鎖されていることで、症状を訴える方に対し支援ナースが対応するのですが、自分の判断がそれでいいのかどうか迷い不安になることもありました。避難所の状況を把握するだけで大変でしたが、自分が出る精一杯の活動を何とか無事に終わることができ、反省点は多いですがとりあえず安心しています。

活動を終えて改めて思うことは、避難所や避難者の方々にあった支援をその時々で考え判断し行動していくこと、また継続していけるよう互いに情報共有、連携していくことが重要であると実感しました。今後はこの経験を生かし自分達の地域の防災について再考するきっかけになればと思います。(平成23年4月2日～4月5日まで、宮城県石巻市にて活動)

6階東病棟 田本 遼

今回の災害支援ナースの活動で宮城県石巻市の避難所へ行ってきました。活動した期間は震災から約1か月が経とうとしていた時期であったため、避難所には物資もありライフラインもほぼ整っていましたが、まだまだ衛生環境も悪く感冒症状を訴える方や食中毒を起こす方が多い現状でした。

活動としては主に、日中夜間を通して交代で本部に待機し対応する、各教室と体育館を回り避難者の把握・バイタルサイン測定、医療班への申し送り、環境の整備などを行ってきました。活動していくなかで、感染の問題や避難所生活のストレスへの対応など、さまざまなニーズへの介入が今後も必要であると感じました。また、活動中には震度6の強い余震が起り、自分自身も地震の恐怖を感じたことで、被災者の方の3月11日に起きた地震の精神的苦痛は図りしれないものだ改めて考えさせられました。

限られた期間で十分な支援もできず、反省することも多かったですが、当院スタッフなど多くの人に支えられて無事に活動することができたことを深く感謝します。(平成23年4月6日～4月9日まで、宮城県石巻市にて活動)

6階西病棟(救急部) 市川 加奈子

私は震災約3週間後に宮城県石巻市の避難所に支援活動に行ってきました。ライフラインの未復旧、物資の不足などで普段どおりの看護が行えないジレンマを感じましたが、看護支援者同志、不十分ですが資源を有効活用し協力することができました。

数日間の活動で一人一人のニーズを把握することは難しいですが、日を追うごとに被災者の方々の表情を見て感じたことは、避難所生活も長期化してくると、健康面だけでなくストレスによる精神的疲労・疲弊が増加蓄積し、身体的不調あるいは精神的に不安定になってしまう方も多いためです。大人もそうですがこれから復興を支えていくであろう前途ある子供達の心の成長が気になります。こういった方々に対して今後専門家による心のケアがますます大切になってくるのではないのでしょうか。

近い将来起こるであろう東南海地震に対し今回の経験を少しでも生かすことが出来ればと思います。(平成23年4月7日～4月10日まで、宮城県石巻市にて活動)

6階西病棟 壺井 久美子

今回、宮城県石巻市の小学校にある避難所に行き活動を行った。体育館は耐震工事が出来ていず100名程度の方が各教室に別れて避難されていた。

日中は医療チームの診察の介助や1日2回避難所の各教室を回り避難者のバイタル測定・観察などを行った。避難所で24時間過ごす事で避難している方々の状態が把握ができ、それを医療チームに伝えることで継続したケアができたように思う。

被災した方の中にはつらい経験をしている方もたくさんおられ心のケアが重要だと感じた。

私は、災害看護の研修に参加しておらず参加していればもう少し何か出来たことがあったのではないかと思う。

災害拠点病院で働いているということ踏まえて今後研修などに参加していきたいと思った。(平成23年4月2日～4月5日まで、宮城県石巻市にて活動)

地域医療連携だより



医療法人外科内科辻医院
辻 啓次郎

原稿を依頼されたのは東日本大震災の前のことで、内容は御自由に、ということでした。常々、紀南病院には医療連携で大変お世話になり感謝しておりますし、快くお引き受けしたのですが、この度の前代未聞の災難をテレビや新聞、雑誌で知るにつけ、何を書いても考えても空しさを感じられて筆が進みませんでした。震災や津波に加え、福島原発事故という目に見えない放射線の脅威にも晒され、五十日を過ぎた今も見通しの立たない状態です。

この間に東京にいる娘と二歳の孫が放射能汚染を心配して帰郷してきたこと、仙台に住んでいる家内の甥の結婚式が滞りなくできたことは少し救われた気持ちになりました。東北新幹線がやっと再開通したとのテレビニュースが流れた中、被災地から久方ぶりに東京に帰ってきた二、三歳の孫を、「無事に生きて帰ってくれた」と愛おしそうに抱きかかえる祖父の姿が映し出されるのを見て、その気持ちがとてもよくわかりました。

私は19床の有床診療所を始めて三十数年になります。有床診療所は日本の医療文化の1つであり、全国的に利用されております。

福岡地方が最も盛んで、日本医師会でもその存在意識を認め担当理事もおります。慢性期やあまり重傷でない急性期の患者さん、寝たきりに近い高齢の患者さんによく利用していただいております。今では主になって診療をしている息子もその有用性をよく理解し頑張ってくれています。

しかし、今度の震災で、東北3県で118の医療施設が壊滅し、医師も2県で11名も亡くなった、との紀伊民報の記事がありました。地域医療が崩壊しかねないともいわれています。



東南海、南海地震は近い将来必ず来るといわれています。私の診療所は海辺から百メートルほどしか離れておらず、城跡に近いので少しは高くなっているとはいえ、今回のような大津波ではひとたまりもありません。このほど2年がかりで同じ場所に新築し完成したばかりなのですが、家内は当初から高台の安全な所に建てたほうがいいとの意向でしたので、「やはり失敗だったのでは」と心配します。ただ、かかりつけ医という立場では、いくら考えても移転はとても無理だと判断した結果でした。以前は2階建てだったので、3階建てのコンクリート造りにしたことが、せめてもの慰めです。

このたびの震災で、いくつかの有床診療所や介護施設も壊滅したと聞きました。入院患者のいる施設として、もし同じような震災に遭遇したら、倫理観を整合できるかどうかを考えながら、「東南海、南海地震よ、どうか一緒に来ないでくれ」と願うばかりです。



天皇・皇后両陛下紀南地方行幸啓の医療後方支援病院となりました。

平成23年5月21日(土)、22日(日)の2日間、天皇・皇后両陛下が第62回全国植樹祭にご臨席のために来県なされ、田辺市、みなべ町、白浜町をご訪問になられました。

この度の行幸啓にあたりまして、当院は救急医療後方支援病院の役目を拝命いたしました。天皇皇后両陛下を初めとする御一行の皆様が行幸啓中に万が一のことがあったときのため、当直スタッフ・待機スタッフの増員など、総力を挙げて万全の体制をとっていました。幸い何事もなく、天皇・皇后両陛下は還幸啓されましたので、職員一同ほっと胸をなで下ろしました。

病院のまど

第31回市民健康講座について

放射線は怖いものというイメージがありますが、実は大気中には微量ながら放射線が存在しています。又、人工的に管理された放射線はレントゲン撮影やがんの治療などに役立てられており、安全かつ有用なものとなっています。今こそ、風評に流されないよう、放射線に対する正しい知識を学びませんか？

日時 平成23年7月3日(日)
時間 午後2:00~3:00
演題 放射線の話
～放射線治療から放射線障害まで～
演者 覚野 芳光 (紀南病院 放射線科医長)
会場 紀南病院 3階講堂

第30回市民健康講座について

平成23年5月8日(日)に「医薬品と健康食品」と題しまして、当院薬剤部長那須明弘が講演をしました。最近はやりの健康食品やサプリメントが、体に効く仕組み、薬との違い、飲み合わせたときの相互作用について、分かりやすく説明しました。皆様の関心も高く、大勢の方が参加され、また、質疑応答コーナーでは活発な質問で会場が大いに盛り上がりました。

編集後記

3月に発生した東日本大震災に、私はこれまで経験した事のない大きなショックを受けた。

自然は美しくやさしいが、時には信じられないほどの牙をむいてくる。一瞬にして破壊された現代人の生活は、通信や安否確認さえも出来ないもろいものだったのか……。

同時にまた、助け合い励まし合う人々の姿には大きな感動を覚えた。

「のどもと過ぎれば熱さを忘れる」と言うが、身のまわりを振り返り、物質的・精神的な備えは出来ているのだろうか、深く考えさせられる出来事だった。

(上野記)

紀南初!!

日本臨床衛生技師会の精度保証施設の認証を受ける。

社会保険紀南病院は、全国的に互換性の高い質の良い臨床検査データを提供する施設として日本臨床衛生技師会の精度保証施設の初回の認証を取得しました。この認証を受けたのは、和歌山県下でも、和歌山県立医大病院と当院のみです。当院中央臨床検査部のデータ標準化への取り組みが高く評価されたものと考えます。

daikoku 株式会社 大黒

本社：〒640-8525 和歌山県和歌山市手平 3-8-43

和歌山事業所	：〒641-0012 和歌山市紀三井寺855-71
紀三井寺事業所	：〒641-0014 和歌山市毛見 1111-1
大阪支店	：〒550-0002 大阪市西区江戸堀 3-5-27
南大阪支店	：〒594-0031 和泉市伏屋町2-16-11
紀南支店	：〒646-0011 田辺市新庄町3778-2
神戸支店	：〒650-0023 神戸市中央区栄町通5-2-6
奈良支店	：〒630-8115 奈良市大宮町4-295-10 奈良朝日生命川口ビル 1F
関西空港営業所	：〒590-0523 泉南市信達岡中919-1
新宮営業所	：〒647-0052 新宮市橋本 2-5-61
東京麹町オフィス	：〒102-0083 東京都千代田区麹町3-5-2 BUREX 麹町301号
京都丸太町オフィス	：〒606-8395 京都市左京区丸太町通川端東入 東丸太町32-3 上田ビル 3F

DAIKOKU MEDICAL SUPPLY

保健・医療・福祉の分野で、

「生命を守る人の環境づくり」を通じて

地域の発展に貢献することが

私達の使命です。

SEIKO MEDICAL
医療の先へ。セイコーメディカル株式会社

■本社	〒640-8287 和歌山県和歌山市手平3丁目9番地の10 TEL. 073-435-2333 FAX. 073-435-2223	■田辺営業所	〒646-0011 田辺市新庄町2744番地 TEL. 0739-25-4535 FAX. 0739-25-4578
■大阪支店	〒595-0012 泉大津市北豊中町2丁目5番28号 TEL. 0725-31-3610 FAX. 0725-31-3619	■新宮営業所	〒647-0072 新宮市橋本2番22号 TEL. 0735-31-9130 FAX. 0735-31-9133
■大阪営業所	〒641-0012 和歌山県紀三井寺788番地の13 TEL. 073-448-3787 FAX. 073-448-3781	■奈良営業所	〒632-0082 天理市荒崎町58番地の4 TEL. 0743-64-3607 FAX. 0743-64-4810